２．りんどう

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M4	オーソサイド水和剤８０	散布	-	8 回以内	
M5	ダコニール１０００	散布	発病前～発病初期	6 回以内	
39	ピリカット乳剤	散布	発病初期	6 回以内	
M7	ベフラン液剤２５	散布	-	8 回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10+1	ゲッター水和剤	散布	-	5 回以内	花き類･観葉植物(ひまわり､ｾﾞﾗﾆｳﾑを除く)
11	ストロビーフロアブル	散布	発病初期	3 回以内	
M5	ダコニール１０００	散布	発病前～発病初期	6 回以内	
M3	（チウラム） チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	散布	発病初期	6 回以内	
9	フルピカフロアブル	散布	発病初期	5 回以内	
M7	ベフラン液剤２５	散布	-	8 回以内	
19	ポリオキシンＡＬ水溶剤	散布	発病初期	8 回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10	ニッソラン水和剤	散布	-	2 回以内	花き類･観葉植物
21	ピラニカＥＷ	散布	発生初期	1 回	花き類･観葉植物(ｶｰﾈｰｼｮﾝ､きくを除く)

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	-	6 回以内	
4	アドマイヤーフロアブル	散布	発生初期	5 回以内	花き類･観葉植物(きくを除く)
1	オルトラン水和剤	散布	発生初期	5 回以内	花き類･観葉植物
	オルトラン粒剤	株元散布	発生初期	5 回以内	花き類･観葉植物（きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウムたであいを除く）
1	スミチオン乳剤	散布	発生初期	6 回以内	
15	ノーモルト乳剤	散布	発生初期	2 回以内	

注1）　使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
注2）　薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
注3）　農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
注4）　蚕毒・魚毒については、「28．花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（Ｆ：菌類病、Ｂ：細菌病、Ｖ：ウイルス病、Ｏ：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防　除　方　法	注　意　事　項
葉　枯　病 （Ｆ）	５月～９月	1. 多肥栽培しない。 2. 茎葉を適切に整理し、過繁茂にしない。 3. オーソサイド水和剤８０の 600 倍液、ダコニール１０００の 1,000 倍液、ベフラン液剤２５の 1,500 倍液、ピリカット乳剤 2,000 倍液のいずれかを７日おきに散布する。 ［参考農薬］ 1. ポリオキシンＡＬ水溶剤 2,000～2,500 倍液を散布する。	1. 初発を確認したら、速やかに薬剤防除を開始する。 2. ベフランは蚕毒に注意する。
褐色根腐病 （Ｆ）	は　種　前 植　付　前	1. 発病ほ場では土壌消毒を徹底する。 2. 連作を避ける。	1. 本病は土壌伝染性の難防除病害である。
灰色かび病 （Ｆ）	５月～９月	1. 発病葉は伝染源になるので、見つけ次第除去する。 2. 茎葉を適切に整理し、風通しを良くする。 3. ほ場衛生の向上に取り組む。 ［参考農薬］ 1. ゲッター水和剤 1,000 倍液、フルピカフロアブル 2,000～3,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 下位葉に小黒点が見られない褐色枯れ症状が本病の特徴である。本症状が見られたら薬剤防除を開始する。 2. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一薬剤を過度に連用しない。
花腐菌核病 （Ｆ）	５月～９月	1. 発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に埋却する。 2. 茎葉を適切に整理し、風通しを良くする。 3. ほ場衛生の向上に取り組む。 ［参考農薬］ 1. ベフラン液剤２５の 1,500 倍液を散布する。	1. ベフランは蚕毒に注意する。
黒　斑　病 （Ｆ）	５月～９月	1. 発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に埋却する。 2. 茎葉を適切に整理し、風通しを良くする。 3. ほ場衛生の向上に取り組む。 ［参考農薬］ 1. フルピカフロアブル、ストロビーフロアブルの 2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 葉の中央部分から輪紋状の病斑が形成されるのが特徴である。本症状が見られたら速やかに薬剤防除を開始する。 2. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一薬剤を過度に連用しない。 3. ＱｏＩ剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
褐　斑　病 (F)	５月～９月	1. 発病葉は伝染源になるので、見つけ次第除去する。 ［参考農薬］ 1. ダコニール１０００の 1,000 倍液、又はストロビーフロアブル 2,000 倍液を散布する。	1. 初発を確認したら、速やかに薬剤防除を開始する。 2. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一薬剤を過度に連用しない。 3. ＱｏＩ剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。

病害虫名	防除時期	防　除　方　法	注　意　事　項
炭　疽　病 (F)	生　育　期　間	1. 敷わらやポリマルチ等により、土壌の跳ね返りを防ぐ。 2. 間引きを徹底し、仕立本数を制限するなど風通しを良くする。 3. 発病部位、発病株は見つけ次第ほ場外に持ち出し、処分する。 ［参考農薬］ 1. チウラム（チオノック、トレノックス）フロアブル 500 倍液を散布する。	1. 可能な場合は、伝染源の可能性が疑われるほ場周辺のニセアカシアを伐採する。 2. チウラム（チオノック、トレノックス）フロアブルは蚕毒に注意する。 3. チウラム（チオノック、トレノックス）フロアブルは、葉に汚れを生じることがある。
リンドウ ホソハマキ	４月～10 月	［参考農薬］ 1. ノーモルト乳剤 1,000 倍液、又はアディオンフロアブル 1,500 倍液を散布する。	1. 散布は、10 日おきに下葉の裏まで薬液がかかるようにする。 2. ５月下旬～６月上旬、７月下旬～８月上旬、８月下旬～９月中旬は発生が多くなるので、散布間隔を短縮する。 **3. アディオンは蚕毒及び魚毒に、ノーモルトは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。**
ハ　ダ　ニ　類	生　育　期　間	1. ニッソラン水和剤、又はピラニカＥＷの 2,000 倍液を散布する。	1. 同一剤を連用しない。 2. 薬剤が葉裏まで十分かかるよう散布する。
ヒラズハナ アザミウマ	生　育　期　間	［参考農薬］ 1. スミチオン乳剤 1,000 倍液、又はアディオンフロアブル 1,500 倍液を散布する。	**1. アディオンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。**
アザミウマ類	生　育　期　間	［参考農薬］ 1. オルトラン粒剤を 10a 当り３～６kg 株元散布する。 2. オルトラン水和剤 1,000 倍液を散布する。	
アブラムシ類	生　育　期　間	［参考農薬］ 1. アドマイヤーフロアブル 2,000 倍液を散布する。	**1. アドマイヤーは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。**
コ　ウ　モ　リ　ガ	生　育　期　間	1. 被害部を発見次第、食入幼虫を捕殺する。	